

子どもは未来をつかみたい



2007年度出版図書

2007年度 年次報告書 2007年7月1日 - 2008年6月30日 2008年度 年次計画書

目次	
2007年度 事業報告	
この1年	1
出版プロジェクト	2
読書推進運動	3
子ども文化センター	4
国内事業	5
組織運営	6
2007年度 会計報告・2008年度収支予算...	7
2008年度 事業計画	9

この1年

この数年、ラオス社会の変化は大変激しいものがあります。都市部での経済の発展により、農村部との間では大きな格差が進んでいます。都市部ではゲームに興じ、塾通いに忙しく、本を読む暇も遊ぶ暇もない子どもたちが増え、非行が増加している一方、地方には20年前と同じように全く本がない学校が多く、子どもたちを取り囲む二つの違う状況が同時に起きています。ラオス語の本も、この数年で、出版活動に熱心なNGOがいくつか現れ、場所によっては以前より多くの本に接することが可能になるなど、教育の状況も変化が見られます。

このような環境の中、私たちの活動は「子どもたちが自らの力を伸ばす権利、人生を主体的に選択する権利を全うできる」社会が形成されるように、支援をおこなうという原点を確かめつつ、今年もおこなわれました。

今年度から始まった第4期中期計画の、プロジェクトの計画と目標では、前期計画の評価を踏まえ、教育環境の整備、定着、担い手育成と自立的な発展には、仕組み作りとともに、働きかける人材こそが重要であるという認識から、

中央よりも現場をより丁寧に

広くあまねくではなく、重点地域を明確に

子どもの意見を反映し、担い手として育てることを基本方針としています。

また組織運営では、
組織の基盤づくりと人材育成
ラオス事務所の「自立」「現地化」を準備する
としています。

3年間の中期計画の初年度にあたる今年度は、読書推進活動ではボーケオ県、ヴィエンチャン県、チャムパサク県、セコン県を中心にプロジェクトを進め、担い手の育成など概ね計画通りに進捗しました。

運営では、前年度末におきたラオス事務所でのバックマージン問題の影響を心配しましたが、スタッフの協力により、結束を高め、密度の濃いプロジェクト運営をおこなうことができました。ギリギリのスタッフ数で全員が、これまでの担当を越えてプロジェクトに係わり、各地を周りながら、それぞれの能力を發揮できたことは、「自立」の点からも大きな成果でした。

一方、何年も課題となっていた東京事務所の発信能力の強化や資金調達力の向上については、充分ではありませんが、ホームページの全面リニューアルや広報資料の整備などが進み、やっと成果を目指せる段階に達することが出来ました。

さらに、活動開始から25年を振り返り、節目を祝う目的で、100名近くの方の参加をいただき、設立「25周年の集い」を開催することができました。また、世界中、ことに発展途上国において、すぐれた子どもの本の出版や普及を奨励することなどを目的とした、スイスバーゼルに本部がある国際児童図書評議会 IBBY (International Board on Books for Young People) から朝日国際児童図書普及賞を受賞し、地味な私たちの活動を世界の人に評価していただくと共に、知っていただく機会となりました。

今年度末までに、ラオス語図書132種類65万冊(紙芝居・教科書を入れれば146種類69万冊)をラオスで出版し、ラオスの小中学校約8,600校のうち2,679校へ図書箱・図書袋を配付し、174校で学校図書室を開設しました。また全国10ヶ所の子ども文化センターの運営支援をしています。

ご寄付やご支援をくださいました個人、民間企業、助成団体、政府関係のみならずには、心より感謝いたします。私たちは引き続き、活動の質、組織運営の改善を心がけてまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局長 野口朝夫

2007年度活動状況



①	図書配付 (1 県)	90校
②	図書補充 (3 県)	165校
③	学校図書室開設	14校
●	子ども文化センター支援	10ヶ所

出版プロジェクト

この1年の活動

14タイトル、68,800部を出版
 通算146タイトル、総部数約69万冊となる
 事務所の図書販売コーナー軌道に乗る

. 出版

全体で図書12タイトル、紙芝居2タイトル、計68,800部を出版しました。計画では図書8タイトル、紙芝居2タイトルでしたが、校正・編集レイアウトができるスタッフが入ったこと、前年の進捗の遅れを取り戻したこともあり、計画より多く出版できました。

一般的には、創作絵本、昔話、詩集、読み物、紙芝居等、様々な種類の新しい作品を出版することができました。特に日本の絵本コンクールの応募作品や、昨年当会がラオスで実施したコンクールの入賞作品など、新しい作家・画家の作品の出版に力を注ぎました。

. 出版作品(作品名/著書/出版部数/主な支援者)

翻訳本

『五体不満足 完全版』

文) 乙武洋匡 訳) チャンタソン

3,500部 大同生命国際文化基金・自己資金
 図書



『動物のたのしいお話』

文) フィリップ 訳) グラヴォン

絵) サイサロン 5,000部 JICA・自己資金

『子ザルのまほうのしっぽ』

文) ヴィタニャコーン 絵) サワンサイ

7,000部 沖電気工業「OKI愛の100円募金」



『一枚の絵』

文) チャンダラー 絵) ケオマニー

5,000部 JICA・自己資金

『誰のしっぽ?』

文・絵) パスリニャー

5,000部 JICA・自己資金



『お母さんのしっぽを探せ』

文・絵) センスリー 5,000部

JICA・自己資金

『図書活用マニュアル

「小学生のための言語習得」

文) ダラー、ドアンドゥアン 5,800部

地球市民財団・自己資金



『人生と希望』(コンクール入賞作品)
 文) エヤムパー他9名 6,000部 庭野平和財団



『追憶』(コンクール入賞作品)

文) ダオペット他8名

6,000部 庭野平和財団



『おもしろい詩』

文) フンアルン 絵) サイサロン

5,000部 JICA・自己資金



『孤児と小さなお化け』(再販)

文) ドアンドゥアン 絵) ヴォンサヴァン

5,000部 JICA・自己資金



『孤児とその妻』(再販)

文) ドアンドゥアン 絵) ヴォンサヴァン

5,000部 JICA・自己資金

紙芝居

『トム君はどこ?』

文) スンナンター 絵) センスリー

2,000部 学習院女子大学



『5つの太陽』

文) サックダー 絵) パスリニャー

3,500部 JICA・自己資金



JICA=草の根技術協力事業

. コンクール

昨年実施したコンクールの入賞作品38点の中から、今年度は『人生と希望』、『追憶』の2作品を出版しました。

. 本の流通システムの形成

図書販売コーナーと本の流通

事務所内に図書販売コーナーを独立させたことにより、事務所での図書販売部数が増えました。ヴィエンチャン市内では、学校教員や個人など、図書を購入する層が形成されつつあります。

図書の販売や委託販売は順調に定着し、ヴィエンチャン市内の委託販売は7ヶ所になりました。援助団体による購入が減った為、図書販売収入の総額は昨年より約25%下がったものの、イベントや事務所内の販売コーナーでの売上は増加しています。



読書推進活動

この1年の活動

- JICAとの草の根技術協力事業を実施
- 4地域255校に図書セットを配付
- 8地域14校に学校図書室を開設

本を読む環境の整備

ラオス国立図書館に協力し、読書推進活動を始めて18年。NGOや個人が本を出版するケースが増え、ラオス社会にやっと図書が増えてきました。当会の長年の活動が認められ、今年、IBBY朝日国際児童図書普及賞を受賞しました。読書推進活動に関連して、下記プロジェクトを実施しました。

草の根技術協力事業

今年度は下記活動を実施しました。

- ・ 8作品28,500部の図書を出版
- ・ ボーケオ県、ヴィエンチャン県、チャムパサック県、セコン県の配付対象校255校に図書 39,960冊を配付
- ・ 図書配付時に、配付対象校の教員に対し読書推進セミナーを実施。各校から1名の教員と各地域を管轄する教育指導官も参加し、合計278名がセミナーを受講。
- ・ 「読書推進センター」設置に向けて、ヴィエンチャン県教育局と同県全郡の教育指導官を対象に、読書推進活動・読書推進センターについての研修を実施。
- ・ 『読書推進ニュースレター』3回4,000部を発行。第5号より編集レイアウト作業を外部委託せず、事務所内で実施。
- ・ 8月に中間評価を実施。ヴィエンチャン県4郡の配付対象校6校の現地調査を実施し、中間評価会議を開催。赤井朱子、チャントソンが出張し、現地調査・会議に出席。
- ・ 5月に終了時評価を実施。対象4県31校の現地調査を実施し、終了時評価会議を開催。赤井朱子が出張し、現地調査・会議に出席。

(ご支援: JICA草の根技術協力事業)



図書室（ハックアーン整備）

小中高校の空き教室などを利用して学校図書室を整備する活動です。数多く寄せられる設置依頼の中から、教員の協力度や校舎の状態などを把握した上で、開設校を決定します。図書室に必要な図書と本棚、読書用の机椅子を提供し、オープン時には読書推進活動のノウハウを提供するセミナーを実施します。

今年度は、計画の10校より多い、小学校10校、中学校3校、民族学校1校、合計14校を8県にて開設し、累計174校になりました。

アッタプー県	小学校2校
ポリカムサイ県	小学校1校、中学校1校、 民族学校1校
チャムパサック県	小学校3校
サイヤブリ県	小学校1校
ヴィエンチャン都	小学校1校
ヴィエンチャン県	小学校1校
シェンクワン県	小学校1校 中学高校1校
セコン県	中学高校1校

3年以内に開設した図書室61校への図書補充も計画通りに実施しました。

(ご支援: 在ラオス オーストラリア大使館、キヤノン株式会社、福岡那の香ライオンズクラブ、富士ゼロックス株式会社、端数倶楽部、ベルマーク教育助成財団、三井住友銀行ボランティア基金、リコー社会貢献クラブFreeWill、Ford Company、Lao-Japan Airport Terminal Service Co., Ltd.、Ms. AZUMA Noriko、Ms. Haruyo YAMAMOTO、Mr. HAYAKAWA Yosei、Mr. WADA Shinji)

プロジェクトの効果と効率を高める活動

積極的な読書推進活動をしている学校の表彰を促進する活動や、支援地域を絞り込む準備を行う予定でしたが、実施できませんでした。

現場への働きかけ

図書のある学校を巡回・指導する人材の雇用・育成を行う予定でしたが、予算や人材が確保できず、開始できませんでした。

一方、現地事務所の発案で、図書の要請があった学校に、図書送付と共に図書の使い方・読み聞かせなどを個別に指導する新しい取り組み、「出張活動」が始まりました。

ラオス語教授法プロジェクト

ラオス語教育改善のため、教員養成校にてラオス語教授法を指導するプロジェクトについて、準備が始まりました。

子ども文化センター(CCC)・その他の活動

この1年の活動

ポリカムサイ県の小規模CCCへの支援を開始
『CCC活動ハンドブック』完成
第4回「子どもブックフェスティバル」を主催
写真ワークショップを実施

子ども文化センター広がりと定着

学校教育では行なわれていない自己表現を学べる施設として、私たちが94年に最初に子ども文化センターを開設支援して以来、15年余たちました。情報文化省大衆文化局に設置された担当セクションが積極的に活動を広め、現在は全国45ヶ所ほどで活動が行なわれています。さらに3年ほど前に、同様な活動が教育省管轄の子ども教育開発センター(CEC)にて始まり、17県中14県に活動が広がっています。

このように全国的に活動が広まる一方、資金調達が出来るところは活発な活動を展開し、出来ないところでは停滞する傾向があるなど、センターによって活動の質のバラツキが大きくなっています。そこで『活動ハンドブック』を作成して配付し、CCC活動の原点、基本がCCC、CECに伝わるようにしました。

運営支援

当会は現在、10ヶ所の運営を支援しています。

- ・大規模CCC
ポリカムサイ県、サイヤブリ県、ルアンパバン県
 - ・小規模CCC
ヴィエンチャン都シーサタナーク郡、サイヤブリ県ゲントオ市、ポーテン市、パクライ市、ポリカムサイ県ターパバット郡
 - ・CCCと同様の活動を行っている施設
ヴィエンチャン都子ども教育開発センター(CEC)、ノンセンチャン子ども開発センター(CDC)
- 大規模のCCC/CECについては、計画通り、スタッフ人件費を段階的に減額しています。また、ポリカムサイ県ターパバット郡の新規小規模CCCへの運営支援を開始しました。
- (ご支援:ミクプランニング、三井住友銀行ボランティア基金、指定募金)

活動ハンドブックの作成

活動の理念や役割を共有するために『子ども文化センター活動ハンドブック』(文:ドアンドゥアン他4名)を1,200部を印刷し、全国の子ども文化センターに送付しました。

(ご支援:日本国際協力財団、立正佼成会平和基金)

子どもブックフェスティバルの開催

本の楽しさを紹介する目的で、ヴィエンチャン都CECにて、6月1日の子どもの日に、第4回「子どもブックフェスティバル」を開催しました。在ラオス各国大使館や援助機関などから34件の寄付を受け、ヴィエンチャン都内で図書がない学校50校に図書を配付しました。

また、サイヤブリ県CECが、2月2～3日に第1回「子どもブックフェスティバル」を開催しました。

専門家派遣

9月に11日間、2月に1ヶ月、2回にわたり日本から写真家の押原謙氏を派遣し、CCC/CECの子どもたちやラオス人スタッフを対象に、写真ワークショップを行いました。子どもたちに対しては、与えられたテーマの写真をカメラで撮る活動を通して、考えたことを写真という形で表現する楽しみを伝えました。また、スタッフ向けには、画像を活用した書類作成の研修を行いました。

一方、現場で長期に渡り青少年活動の人材を育成する専門家の派遣は実施できませんでした。

(ご支援:JICA技術者派遣事業)

その他の活動

事務所図書室活動

ラオス事務所1階の図書室を有効活用する目的で、試験的に「読書会」という特別プログラムを企画しましたが、参加者が十分に集まらず、実施できませんでした。

イベント・受け入れなど

今年度は、25周年記念式典、子どもブックフェスティバルと、大きなイベントを2件主催しました。また、学習院女子大学のスタディツアーおよびインターンの受け入れをはじめ、6団体の受け入れを実施しました。

広報

新聞やテレビ、雑誌等に取材を働きかけ、25周年式典やIBBY受賞など、当会の記事が、ラオスの英字新聞やラオス語新聞に計7回掲載されました。また、インターネットを通してラオス内外からのお問い合わせも増えつつあります。

コンクール応募

ラオス事務所の体制変更により、事務作業が充分でなかったため、日本の紙芝居や絵画コンクールへの応募は、5月の第20回箕面紙芝居まつり1回のみとなりました。(応募6作品、入賞1作品)

国内事業

この1年の活動

- ホームページをリニューアル
- 広報用ツールを強化
- ラオスのこども設立「25周年の集い」を開催

. 広報

ホームページ

多くのボランティアの協力により、ホームページを4月に新しいものとするのが出来ました。情報量が飛躍的に



ホームページトップページ

に増えたことに加え、構成が以前より分かり易く、NEWSでの活動紹介など、頻繁な情報更新がおこなわれるようになったと好評です。

リーフレット・ポスター

従来の総合リーフレットを補完する新しい広報ツールや、ホームページなどの素材として用いるために、写真家の押原譲氏を現地に2回派遣し、取材を依頼しました。押原氏のご協力を得て、質の高い写真を用い、詳細版パンフレット、ポスター、活動紹介用パネルを作成することができました。パンフレットは主に企業や団体などに持参・配布し、ポスターは学校や公共施設などで掲示してもらい、活動の周知と幅広い支援者の獲得を目標としています。

ご支援：日本国際協力システム(組織基盤強化事業)

ニュースレター

ニュースレター「ラオスのこども通信」は、設立25周年を記念して、これまでの活動内容、意味を考える記事「出版のあゆみ」、「25周年のあたたかいご支援・ご協力とともに・・・」などを中心として、計3回 7,400部を発行しました。

イベント

この1年、企業、地区、学校での行事など23のイベントに参加し、「ラオス語絵本づくり」や活動紹介、物品販売を行いました。

当会主催のイベントは2件行いました。ラオスのこども設立「25周年の集い」では、片岡輝東京家政大学学長による「絵本・遊びと子どもの世界」のお話と、片岡



「25周年の集い」

氏とチャントソンとのトーク「ラオスの子どもたちと共に」の後、交流会がもたれました。恒例の「サバイディピーマイパーティー08」には170名ほどの方が参加して下さいました。また「ラオス女性が伝える手織りの世界」展での物品販売コーナーを担当するなど、かなり大きなイベントで活動を広く紹介する機会を持つことができました。この1年間イベントボランティアとして活動してくれた方は延べ220名、うち66名が留学生でした。

. ラオス語絵本プロジェクト

日本語の指定図書にラオス語の翻訳をつけてラオスに送る活動は、今年度は昨年度より10%増加し843冊、累計 4,297冊(5年間)の絵本を送ることができました。ラオスからの礼状の送付の迅速化と、著作権の許諾の再確認作業が課題となっています。

また参加型国内活動のための、新たなプロジェクト、「ラオス語文字カードづくり」を試行することが出来ました。

. 書き損じハガキ収集キャンペーン

1年間で172件、50円の書き損じハガキ 4,045枚、未使用ハガキ1,058枚、未使用切手52,550円分 計307,700円分のご支援をいただきました。ニュースレター発送封筒裏にハガキ返送用封筒を印刷した効果もあってか、昨年度より20%程収集件数が増加しました。

. ネットワーク活動

当会は、国際協力NGOセンター(JANIC)正会員、教育協力NGOネットワーク会員、紙芝居文化推進協議会会員になっています。またG8サミットNGOフォーラムサポートメンバーに参加しました。昨年に続き、共同代表森透が教育協力NGOネットワーク副代表、事務局長野口朝夫が国際協力NGOセンター理事を務めました。また引き続き、学習院女子大学での「ボランティア実習」講師として事務局長を派遣しています。

組織運営

この1年の活動

ラオスにてプロジェクト評価活動を実施
ラオス事務所の体制、大幅に変更

・全体運営

理事会

今年度は計11回開かれました。25周年イベント企画、小沼理事によるラオスでのプロジェクト評価活動に基づく中期計画の見直し、広報資料の内容検討、JICA草の根技術協力事業の評価と展開などを話し合いました。一方で、昨年からの課題である運営会議と理事会の役割分担の明確化については、解決していません。

会員

年度末の会員数は、活動会員68名、サポーター112名(うち団体6)です。名簿の整備が進み、きめ細かいフォロー、適切な情報発信が可能となった結果と、朝日国際児童図書普及賞受賞の効果もあってか、会員申込が増加しています。

総会

9月8日、第5期 2007年度通常総会を、33名(うち活動会員31名、賛助会員2名)の出席のもとに開催しました。第5期事業報告、会計報告が承認されるとともに、森透、チャントソン インタヴォン、野口朝夫、小川直美、塩谷光、近藤知子、小沼千秋が理事に、野口賢一、脇田康司が監事に2年の任期で選出されました。また、ラオス事務所のバックマージン問題について話し合いました。

運営会議

活動会員とボランティアが参加し、活動方針などを確認しながら共有する場である運営会議は、計11回、延べ139人が参加しました。会議が連絡中心となり、意思決定に関わる度合いが低下している問題は、事務局の準備が十分に出来ないことから、改善には至りませんでした。

プロジェクト評価

活動開始25年の節目を機に、小沼理事を2か月にわたりラオスへ派遣し、プロジェクト評価活動をおこないました。子どもたちの教育環境が改善しつつあるという成果が見られた一方、いまだ半数近くの学校で読書環境不十分である、また読書推進活動の知識・技術の継承、子ども文化センターや子ども教育開発センターでの各センター間の質のばらつきや資金調達の問題などが明らかになり、中期計画の修正に生かされました。

・東京事務所

体制

専従スタッフ2人を中心に、ボランティア、インターンが日常業務を支える体制を安定的に作る事ができ、これまでに増して多くのイベントや業務を担うことが出来ました。1年4ヶ月スタッフとして勤務した関千春が、年度末で退職しました。

資金調達

前年度は一般寄附・指定募金が金額、件数とも大幅に減少しましたが、今年度は、広報活動を強化する中で、一般寄附・指定募金に金額、件数とも若干の回復が見られ、予算に近い数値を達成できました。また、資金調達の一環として、関千春をラオスに派遣し、物販に関する調査を実施しました。

ボランティア・インターン

ボランティア登録者は44名です。新しく関わってくださる方も増え、イベントや日常活動の大きな力になっています。また提携をしている学習院女子大学の学生インターンが2名、事務局業務補助などで活動を支えてくれました。



・ラオス事務所

体制

バックマージン問題からコーディネーターが退職しましたが、スタッフ全員の努力により積極的にプロジェクトを実施し、概ね問題なく進めることができました。資金調達力、事務所の総合的な運営能力は向上しています。また、読書推進誌が軌道に乗り、ラオス事務所からの発信が強化されました。

現在の体制は、現地代表のダラーを中心に、フルタイム6名、アルバイト1名、臨時雇用1名、学生インターン2名となっています。この他、猿田由貴江が駐在員として派遣されています。

資金調達

ラオス国内の民間企業や援助機関に対し、ラオス人スタッフのみで、資金調達ができるようになってきており、調達額は昨年より17%増加しました。とりわけイベント開催に協力してくれる民間企業や援助機関が増えています。

2007年度主催・参加イベント

東京事務所 (太字は主催イベント)

7/7	沖電気工業「ラオス語絵本づくり」
7/13	学習院女子大学「ラオス語絵本づくり」
8/24-26	「麻布十番納涼祭り国際バザール」
9/22-23	ラオスフェスティバル
10/6-7	グローバルフェスタ
10/27-28	異国の風号・地球旅行でかけヨット 「ラオスへの旅」
11/5	コープかながわ「ラオスを知ろう」
11/17	ラオスのこども設立「25周年の集い」
1/15-25	大田区NPO区民活動フォーラム
1/26	第6回ワールドカルチャーフェスティバル
2/7	田園調布雙葉学園「絵本づくり体験授業」
2/23	富士ゼロックス「ラオス語絵本づくり」
3/7	キッコーマン(東京)「ラオス語絵本づくり」
3/14	キッコーマン(野田)「ラオス語絵本づくり」
3/18	キッコーマン(仙台)「ラオス語絵本づくり」
4/19	「サバイディーピーマイパーティ08」

4/23	大田区大森十中「世界一大きな授業」
5/17-25	大田国際交流週間2008
5/23-25	「わくわく世界の絵本ひろば」絵本展示
6/3-29	横浜シルク博物館「ラオス女性が伝える 手織りの世界」展

ラオス事務所 (太字は主催イベント)

8/4	25周年記念イベント
8/13-28	学習院女子大学長期研修インターン受入
8/22	大倉山アソカ幼稚園海外研修受入
8/27	東京四谷ロータリークラブ訪問受入
9/8	世界識字の日イベント参加
9/12	埼玉大学・東洋英和女学院大学訪問受入
11/28-29	JICA草の根技術協力事業視察団受入
2/2-3	サイヤプリ県子どもブックフェスティバル
2/6, 11	学習院女子大学スタディーツアー受入
4/11	朝日国際児童図書普及賞(1BBY)受賞記者会見
6/6-7	第4回子どもブックフェスティバル

2007年度 会計説明

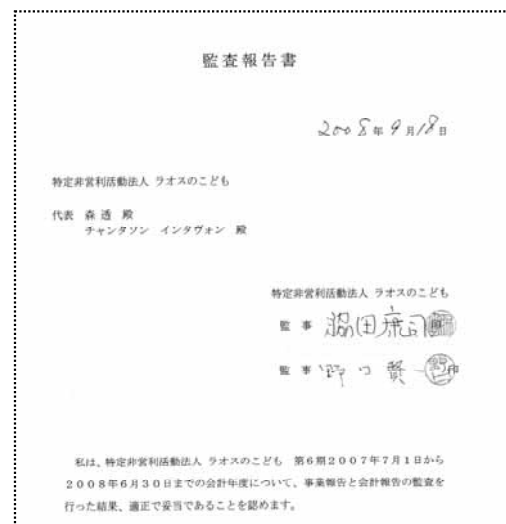
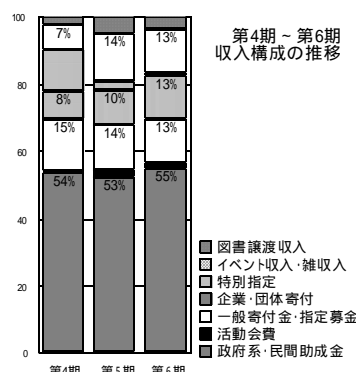
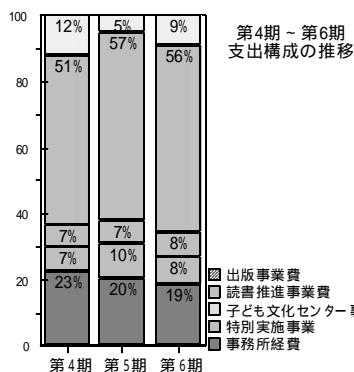
貸借対照表
2008年6月30日現在

科目	金額	
資産の部		
1 流動資産		
現 金	80,578	
預 金	12,986,310	
外 貨	5,274,328	
仮 払 金	165,185	
流動資産合計		18,506,401
2 固定資産		
什 器 備 品	15,478	
固定資産合計		15,478
資産合計		18,521,879
負債の部		
1 流動負債		
未 払 費 用	527,148	
預 り 金	67,740	
仮 受 金	2,363,420	
流動負債合計		2,958,308
負債合計		2,958,308
正味財産の部		
正味財産		15,563,571
(うち当期正味財産減少額)		(-1,044,966)
負債及び正味財産合計		18,521,879

収入は、各科目でほぼ予算額を達成しており、特にプロジェクト援助金やイベント収入では予算額を上回り、収入合計が増加しました。活動会費は、予算額を達成していませんが、前期に比べると増加しています。

支出は、前期に作業が遅れ、期を超えての実施となった出版事業が大きく予算額を上回りました。また、学校図書室開設事業が10校の計画だったところ、14校での実施となった為、予算を上回りました。子ども文化センター支援事業やその他の事業では、ほぼ予算通りの決算額となりました。管理費では、東京事務所の人件費について、決算額が予算額を上回っています。これは、予算算出の際に積算漏れがあり、予算額が低く設定されていたことによります。ラオス事務所経費は、光熱費の値上がりなどがありましたが、合計額ではほぼ予算通りの決算となりました。

繰越金のうち約500万円はプロジェクトが指定され、期を超えての実施が予定されています。



2007年度 会計報告 2007年7月1日～2008年6月30日 2008年度 収支予算 2008年7月1日～2009年6月30日

収入の部		(単位:円)			
科目		2006年度決算	2007年度予算	2007年度決算	2008年度予算
会費・寄付金	小計	5,310,105	6,040,000	5,698,573	7,750,000
一般寄付		3,800,270	3,600,000	3,451,073	4,800,000
活動会費		651,000	900,000	723,500	1,200,000
指定募金		858,835	1,540,000	1,524,000	1,750,000
プロジェクト援助金	小計	21,602,899	23,500,000	26,136,440	18,850,000
民間一般助成金		6,260,650	6,500,000	7,073,953	11,250,000
政府系補助金・助成金		14,501,150	16,000,000	18,156,777	6,600,000
現地受取補助金・助成金		841,099	1,000,000	905,710	1,000,000
その他	小計	7,544,511	6,250,000	6,778,916	6,400,000
特別指定		932,019		434,839	
イベント収入		3,886,131	4,000,000	4,631,771	500,000
販売収入					5,600,000
雑収入		2,726,361	2,250,000	1,712,306	300,000
当期収入合計		34,457,515	35,790,000	38,613,929	33,000,000
前期繰越金		20,361,551	16,593,059	16,593,059	15,548,093
収入合計		54,819,066	52,383,059	55,206,988	48,548,093
支出の部					
科目		2006年度決算	2007年度予算	2007年度決算	2008年度予算
事業費	小計	30,493,255	28,707,440	32,272,145	27,005,340
出版事業費		1,914,969	2,629,200	3,604,585	3,954,500
図書出版		1,239,135	2,052,000	3,088,549	2,904,000
紙芝居出版		434,916	510,000	506,035	830,500
コンクール		234,782			
統括管理		6,136	67,200	10,001	220,000
読書推進事業費		21,833,190	20,019,600	22,347,202	16,818,450
草の根技術協力事業		16,573,242	16,024,800	16,959,654	6,999,630
学校図書室・教員養成校		3,555,101	2,394,000	3,897,754	3,586,000
統括管理		1,704,847	1,600,800	1,489,794	6,232,820
子ども文化センター支援事業費		2,741,568	3,245,640	3,053,205	2,870,890
各センター運営費		1,879,553	1,917,240	1,845,741	1,538,570
自立支援		484,148	900,000	935,373	935,000
統括管理		377,867	428,400	272,091	397,320
特別実施事業費		4,003,528	2,813,000	3,267,153	3,361,500
その他現地事業費		1,501,163	798,000	727,429	896,500
国内事業費		2,502,365	2,015,000	2,539,724	2,465,000
管理費	小計	7,732,752	6,595,200	7,386,750	6,603,740
東京事務所経費		6,569,577	5,502,000	6,367,129	5,478,000
家賃・水道光熱費		605,000	540,000	540,000	540,000
通信費・運搬費		169,627	180,000	150,353	150,000
事務費・記録費		255,649	252,000	299,633	348,000
広報費		741,060	950,000	810,106	900,000
人件費・交通費		4,198,584	3,120,000	4,101,869	3,120,000
出張費		349,198			
備品消耗品費		29,700	100,000	74,530	100,000
諸会費・会議費		138,606	140,000	142,090	100,000
雑費		82,153	220,000	248,548	220,000
ラオス事務所経費		1,163,175	1,093,200	1,019,621	1,125,740
家賃・水道光熱費		169,296	165,600	187,767	158,400
通信費・広報費		19,263	26,400	1,330	24,200
事務費・記録費		34,322	43,200	20,106	26,400
人件費・交通費		767,539	642,000	581,133	718,740
備品消耗品費		70,494	72,000	101,416	66,000
諸会費・雑費		102,261	144,000	127,869	132,000
予備費			500,000		300,000
当期支出合計		38,226,007	35,802,640	39,658,895	33,909,080
当期収支差額		-3,768,492	-12,640	-1,044,966	-909,080
次期繰越収支差額		16,593,059	16,580,419	15,548,093	14,639,013

全体方針

組織の基盤づくりと人材・財源の確保
プロジェクトでは、現場力の強化

今年度で、3年間にわたり継続してきたJICA連携事業が終了し、資金の大幅な落ち込みが見込まれます。そこで組織運営の強化が、今年度の一歩の課題となります。新しい広報資料やホームページ、IBBY朝日国際児童図書普及賞の受賞実績を生かし、継続的な活動のための組織の基盤づくりと、人的・経済的資源の確保に優先的に取り組みます。

プロジェクトにおいては、第4次中期計画の2年目として、＜中央よりも現場をより丁寧に＞、＜満遍でなく地域ポイントを明確に＞、＜子どもの意見を反映し、担い手として育てる＞、という方針で、引き続き「現場力」の強化を目指します。

プロジェクト運営

主な活動

8作品を40,000冊を出版

コンクールを実施

新規の図書を35校に補充図書を90校に配付
学校図書室（ハクアーン）を10校に開設
10ヶ所のCCCを支援、1ヶ所を新たに支援

出版

作品の質に重点をおき、継続的に多様な図書を出版していきます。「売れる本」作りにも着手します。また、若手の作家や編集者の育成をおこないます。さらに、多様な少数民族向けの出版にも力を入れていきます。

- (1)子ども向けの図書8作品（各5,000冊、うち2作品は海外文学の翻訳）を出版します。
- (2)人材発掘、育成を目的とした「コンクール」を実施します。
- (3)イベントでの販売や委託販売を増やし、本の流通システムの拡大を図ります。

読書推進

JICAとの連携事業では、図書を維持・活用し、読書推進活動を学校教員、児童、地方自治体などの関係者全員で自立的に発展させていく仕組みを構築する取り組みを継続します。また、現場への働きかけを強める活動を実施します。

(1)配付普及活動（継続的な取り組み）

・新規の図書を35校、補充図書を90校に配付します。また、当会出版の図書セットを無償提供する活動を、100校程度実施します。

・『読書推進ニュースレター』を継続して、定期的に年3回発行します。

・学校図書室（ハクアーン）を10校にて新規開設します。また、3年以内に開設した40校の学校図書室へ図書を補充します。

(2)効果と効率を高める

・読書推進センターの設置などにより、図書の流通システムを拡充する活動を通して、各学校に図書の自己調達を促します。

(3)現場への働きかけを強める

・図書のある学校を巡回し、指導をしてまわる人材の雇用・育成をおこないます。

・これまでの「読む」ことから、「書く」ことも含んだ活動へと発展させ、教員養成校にて、ラオス語教授法に関する事業を開始します。

子ども文化センター

理念の共有を深め、研修等を通じ、より質の高い活動が展開できるように支援をおこないます。さらに、活動において「子ども参加」を促進します。

(1)10館の運営支援を継続します。

大規模のCCC/CECについては、講座経費及び運営費のみの支援に切り替えてゆきます。

(2)小規模CCCの支援を1ヶ所増やします。

(3)昨年度作成した「活動ハンドブック」を使ったセミナーを実施します。

(4)3年間でCCCの再構築をおこなうために、各センターの活動状況を把握します。

(5)現場で長期に渡り、青少年活動の人材を育成する専門家派遣の準備をおこないます。

事務所図書室の活動

事務所1階に設置されている図書室の有効的な利用を再検討します。会のスタッフ達が、図書に接する機会が少ない地域に出かけていく出張活動に力を注ぎます。



・国内事業

主な活動

新広報ツールを活用した積極的な広報活動

広報

ホームページで、より豊かな情報発信と頻繁な更新を図り、英文ページ、ラオス語ページを完成させ、ニュースレターは年3回の発行を継続します。英文年次報告書発刊を進めます。新しい広報ツールを活用し、積極的な広報活動をおこないます。

インターン・ボランティア

日常業務を支えるインターン、ボランティアの役割分担を明確にし、専門性を高めるようにします。

イベント

主催イベントを中心とした参加とし、ボランティアの主導的な参加を促進します。

ラオス語絵本プロジェクト

様々な形で活動に参加できるこのプロジェクトを、今年も積極的に推進し、あわせて著作権の再確認作業を進めます。また新しく開発した参加型イベントメニューを改善し、定番化します。

書き損じハガキ収集キャンペーン

より多くの方に参加いただけるように展開します。

・組織運営

今後の事業展開の方向性を検討

認定NPO法人資格取得に向けて準備

ラオス事務所の資金調達力を強化

日本人駐在員が一時期不在となる予定のため、活動におけるラオス事務所との意思疎通能力の向上とともに、派遣調整をおこないます。

会員の皆様に活動やラオスの状況を迅速に伝え、満足度を高くするとともに、運営資金獲得活動などに積極的に取り組みます。

理事会

理事会での審議事項を整理、明確化させることで、スピード感を持って意思決定事項が実行されるように改善します。

会員

積極的な働きかけをおこない、活動会員90名、サポーター（賛助会員）150名を目指します。

運営会議

会員・ボランティアが活動方針などを共有化できるように、勉強会や積極的意見交換の機会を提供して、活性化を図ります。

計画評価・推進

JICA草の根技術協力事業が12月に終了するのにもない、次の協力事業の方向性を探ります。ラオス事務所スタッフの参加による、各プロジェクトの年度ごとの評価を実施します。

【東京事務所】

体制

今年度も常勤専従スタッフ2名、常勤非専従事務局長1名で運営します。

資金調達

認定NPOの取得へ向けて準備をすすめます。また物販事業の展開を図ります。さらに30%程度を目途に会員を増やし、会費収入の増加を図ります。

【ラオス事務所】

体制

ラオス人現地代表1名、スタッフ6名程度、日本人駐在1名の体制で運営します。スタッフの事務能力、プロジェクト運営能力と専門性を高めるため、個別研修をおこないます。

資金調達

資金調達額を昨年度の10%増を目標とし、引き続きラオス国内の外国政府機関、NGO、企業などに積極的に働きかけをおこないます。事務所内の書店コーナーでの図書販売を積極的に進めます。

広報

ラオス語、英語の広報資料の内容を充実させ、積極的な広報を心がけます。日本に向けラオスの教育や子どもたちの状況に関わる情報発信を増やします。

イベント・対外活動

ブックフェスティバルなどの主催イベントを継続開催し、ラオス社会での会の存在感を強めるようにします。ラオスで教育に関わる活動をおこなっている団体との協力関係を築いてゆきます。

2008年度役員

理事 チャンタソン インタヴォン(共同代表)
森 透(共同代表) 野口朝夫(事務局長)
小川直美 小沼千秋 近藤知子 塩谷光
監事 脇田康司 野口賢一



東京事務所

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12,303

TEL/FAX 03-3755-1603

E-mail deknoylao@yahoo.co.jp <http://deknoylao.org>

ラオス事務所

035/3 NOUAI 05 SAMSENETHAI RD. SIHOM CHANTHABURY,

VIENTIANE LAO P.D.R. P.O.BOX1518

TEL/FAX 856-21-21-3449

E-mail alclao@laopdr.com